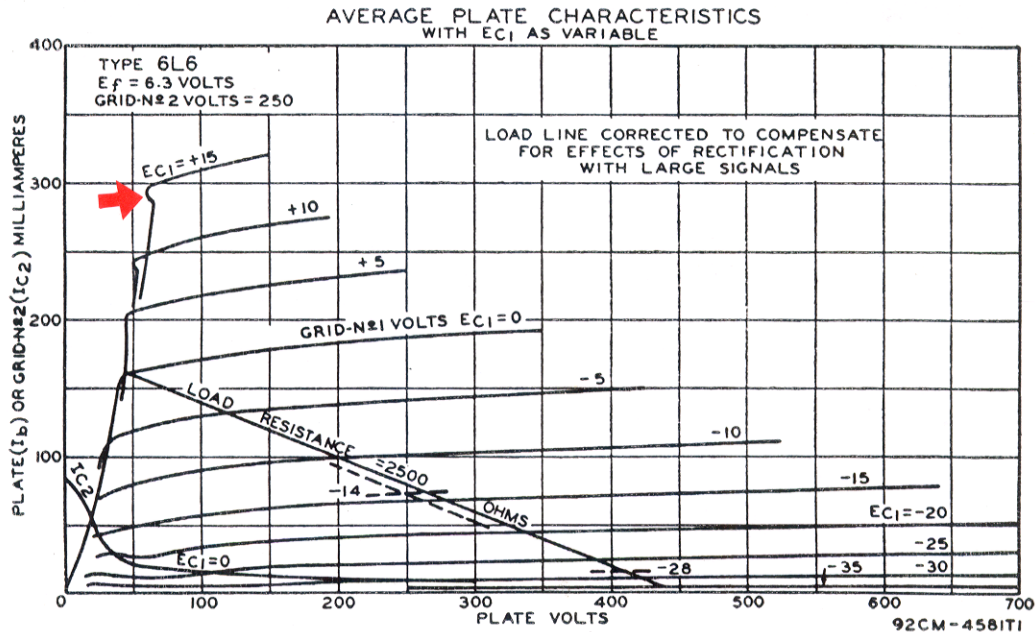


18. 6L6 / 807 あれこれ

(1) E_p - I_p 曲線の「括れ」について：

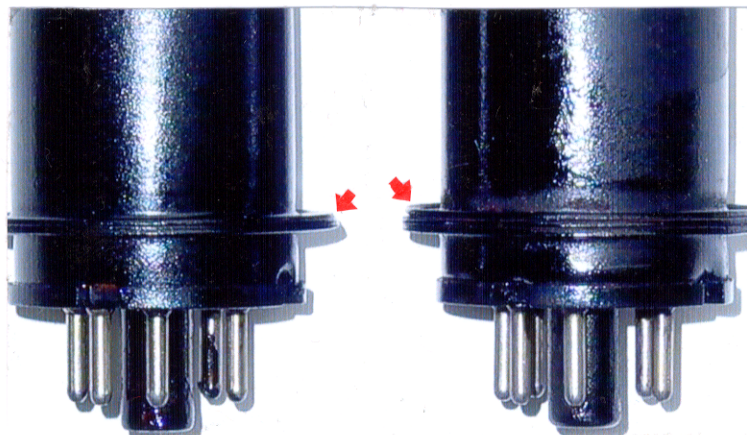
6L6 / 807 の E_p - I_p 曲線には図の様に左肩の屈曲部に「括れ」があります。



以前から一寸気になっていましたが、真空管 / オーディオ関係を主体とする Mailing list tubeml2@mlc.nifty.ne.jp を通じて質問を出してみましたところ、武内亮氏から『この特性曲線は E_{sg} を固定して測定しているので、 $E_p < E_{sg}$ となる領域で S_g への分流が増すため生じている現象で、カソード電流($I_p + I_{sg}$) に括れは生じていないのではないかと。同様の現象は WE350B にも見られる』とのご教示を得ました。

武内氏に厚く御礼申し上げます。

(2)



二重フランジ

三重フランジ

前述(p.30)の通り、6L6 のフランジは 1939 年の中頃からヘッダーの構造の変更に伴ってベース・スカートが二重から三重構造になりました。

写真でご覧に入れます。